

第1回京大本番レベル模試 世界史 B 採点基準

【全体的な基準】

1. 通常、漢字で解答すべき用語に関して、誤字・ひらがなで書かれたものは誤りとする。
南京 ×ナンキン ソウル 毛沢東 ×マオタオトン
(中国や朝鮮などの人名・地名は、通常、教科書等で漢字を使って表記されているものは漢字を使用して解答するという原則にする)
2. 解答に含む必要のない要素を含んで解答した場合は、誤りとする。
例) 問題 ... 「ナポレオンの皇帝即位は(1)年のことである」
解答 ... 「1804」 加点。
「1804年」 × 加点せず。
3. 新字体・旧字体の両方が存在する用語については、どちらを書いても正解とする。
例) 蒋介石 蒋介石
ただし、実際の入試では誤りとされる可能性があるものについては指摘する。
4. カタカナ表記の揺れ(Vの読みなど)は、許容される範囲であれば正解とする。
例) いずれも リヴァプール/リバプール、ローズヴェルト/ルーズヴェルト
音引きが抜けていた場合、配点が1点の場合は加点せず、2点以上のときは1点減点とする。
例) ハールーン = アッラシード ハールン = アッラシード
5. 人名・地名等に関しては、「=」「・」いずれを使用しても正解とする。
例) いずれも フランクリン = ローズヴェルト, フランクリン・ローズヴェルト
「=」「・」あるいは「-」で区切るべきところで、これらが抜けている場合、たとえばフランクリンローズヴェルトなど一続きで書いてあるものは1点減点
また、誤った場所で区切っているものは加点しない。

< 論述式問題について >

1. 200字以上の問題は、解答の字数が50字に満たないものは、採点対象としない。(49字以下でも、書かれている部分については内容が正確であるという場合は字数不足で採点対象外であることを指摘する)
2. 字数オーバーについては、0点とする。ただし句点だけオーバーした場合は、1点減点にとどめる。
3. 下線を付すという条件を満たしていない場合は、指摘のみにとどめる。
ただし、実際の入試では減点対象となることを指摘しておく。
4. 論述の規則違反(行頭1字空け、句読点の位置、年号の表記方法など)については、減点とせず指摘にとどめる。設問文に数字表記の仕方の指示を出していない場合、数字を1マスに一つずつ記してあっても減点しない。実際の入試問題でも数字表記の仕方の指示は普通出していないので。
5. 加点ポイントに関する誤字、脱字、ひらがな表記については1点減点とする。なお、加点ポイント以外の部分に関しては、指摘にとどめる。
6. 加点ポイントに関する重大な事実誤認や事実の欠落がある場合は加点しない。
例) いずれも加点せず。
ローマ皇帝ハインリヒ4世 「神聖」の欠落
1123年のヴォルムス協約 年号の誤り
7. 加点ポイント以外の重大な事実誤認等については指摘にとどめる。